

下野市立石橋北小学校

1 学校課題

主体的に学び、高め合う児童の育成 ～自己肯定感を高め、豊かな表現力の育成をめざして～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校の児童は、各種学力調査の結果によると、各教科とも基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着に課題がある。また、「友達の前での考えや意見の発表」や「学習に自分から進んで取り組む」、「高め合う」ことにも課題があることが分かった。

そこで、児童が学ぶことに興味や関心をもつとともに、見通しをもち粘り強く取り組み、自分の考えを表現することで「分かる楽しさ」や「できる喜び」を実感し、豊かな表現力を創造できるよう授業改善を図っていく。その際にGIGAスクール構想により整備された学習用タブレット端末などのICT機器を有効に活用する。また、授業における「学び合い」を推進するため、ペアやグループによる交流の時間を設定したり、座席をコの字型に配置したりする。この取組を計画的・継続的に行うことで、児童が達成感や成就感を得て自己肯定感を高め、主体的に学びに向かい、互いに高め合う児童を育成することができるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

(2) 課題追求によるめざす児童の姿

- ①学習課題を自分のものとして捉え、解決に向けて取り組み、深く学ぶことを楽しむ子ども
- ②互いのよさを認め合い、高め合う子ども
- ③「分かった」「できた」ことに自信をもって表現できる子ども

3 研究内容

(1) 研究の方針、内容及び具体策

自己肯定感を高め、豊かな表現力を創造できる授業の工夫

方針	内容	具体策
(1) 学習意欲を高め主体的に学びに向かうことができる授業の工夫	①自ら目的意識や課題意識(疑問・問い)をもつことができる導入 ・「めあて」の提示の工夫	ア 自作教材、具体物の活用の工夫 イ ICT機器を活用した導入の工夫 (学習用タブレット端末、デジタル教科書、動画教材等) ウ 児童の情意に働きかける課題の提示の工夫と発問の工夫
	②「振り返り」活動の確実な実施と内容の充実	ア 「めあて」「まとめ」「振り返り」の授業展開への位置付けと提示方法の工夫 イ 授業計画シートや板書計画ノートの作成
(2) 学業指導の工夫 ・学びに向かう集団づくり ・子どもが意欲的に取り組む授業づくり	①安心して学び合える集団づくり	ア Q-Uや学級力アンケートの実施・分析による学習集団づくり イ 互いのよさを生かし、認め合う学級経営
	②個のよさを生かす学習形態や学習活動	ア 学習形態の工夫による学び合いの時間の確保 (座席のコの字型配置、協同学習等) イ 学習用タブレット端末による思考の表現
(3) 達成感や喜びのある授業の工夫	①達成感や成就感を得られる教材やICT機器の活用	ア 教材の収集・開発・作成・管理・活用など イ Google Workspaceを活用した学習用タブレット端末による個人の考えの表現の工夫 ウ 課題解決のために活用するICT機器の使い方スキルアップの支援 (情報教育アドバイザーとの連携)
	②学年相応な家庭学習の充実	ア 家庭学習の実態調査と分析 (各種学力調査結果、学校評価) イ 家庭学習のガイドラインやモデルの提示

		(「家庭学習のすすめ」を用いた家庭への啓発と協力依頼) ウ 授業との関連を図った家庭学習の工夫および自律的・計画的な学習方法の支援
--	--	----------------------------------------------------------------------

(2) 研究授業を通じた主題への取組

月日	学年	教科：単元名	課題追究のための手立て（最重点）
5/13	2年	算数：ひき算の筆算	◎他者に考えを伝えるための配慮として説明の型を示し、低学年としての基礎や素地を培えるようにする。
5/26	ひばり2	自立活動：心理的な安定「自分でできること」	◎パワーポイントや番組視聴を用いて、普段の自分を振り返り、よりよい自分について考えられるようにする。 ◎小集団活動で指導者が見守り、待つことで、主体的な活動を引き出す。
6/11	3年	外国語活動：How many?（数えてあそぼう）	◎頑張りが見られた場面では大いに褒め、「分かった!」「できた!」という喜びや感動、成就感、達成感により自信を深めさせ、自己肯定感が高まるようにする。
7/3	5年	体育：クロール、平泳ぎ	◎学習資料を拡大掲示で用意し、課題や練習方法を選んだり、課題を伝え合ったりするときに使えるようにする。
7/4	5年	家庭：ソーイング はじめの一步	◎玉どめや玉結びのみでできる作品づくりを行う。
9/5	6年	算数：比	◎グループで意見を交流し合い、自分の考えをよりよくする。
9/22	3年	算数：大きな数	◎個人で考える時間を設けた後に、グループで交流する時間を設ける。
10/28	4年	社会：きょう土の伝統・文化と先人たち	◎「下野市文化財マップ」を作成することにより、班の友達と協力しながら、よりよいものを作るために高め合う。
11/13	1年	生活：あきとなかよし	◎一人一人が課題であるおもちゃづくりを通して、友達と交流しながら作ることで、よりよいおもちゃにする。
11/17	3年	音楽：せんりつと音色	◎個人で考えグループで伝え合い、代表者が発表する流れをつくる。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①「3研究内容（2）研究授業を通じた主題への取組」に示したように、本校は一人1回以上、学校課題研究に基づく公開授業を実施してきた。各学年の各教科での授業における子どもの姿を捉え、主体性を育み、高め合う力を伸ばし、自己肯定感を高められるように指導してきた。ICT機器を積極的に活用したことで、友達の文章を参考にしたり、互いの考えの良さを伝え合い、認め合えるような関係性が構築されたりした。学年ブロック（低・中・高学年ブロック）で研究し、振り返ることで、授業力の向上に努めることができた。
- ②算数では、問題の読みとりをする際に線を引くことで、読み落としが少なくなってきた。
- ③学び合いの機会を多く設定することで、多様な意見に触れることができるようになり、児童同士で高め合う姿が見られた。
- ④振り返りの仕方を提示することで、どんなことができるようになったのか、どんなことについて考えたのかを視点をもって自分の学習を振り返ることができ「分かった」「できた」が実感できるようになった。
- ⑤学業指導の充実を図り、教室内で学ぶ際の「安心感」も高めることができた。
- ⑥自分や他者の考えや思いを伝えたり、受け入れたりする学習活動を繰り返し行うことで、安心して発言できるような雰囲気が醸成されてきた。安心感から主体性が育まれてきた。

(2) 研究の課題

- ・主体性育成の一助として、家庭学習（自主学習）の充実を継続したい。自主学習のモデルを提示したり、共有ノート「ぐるぐるノート」を実践したりして内容の充実を促したが、改善の余地があると考えられる。あらゆる機会を活用し、家庭への啓発と協力依頼にも取り組みたい。